西馬作
國輝畫
下冊
へ13
3693
14
弓張月
題夢五國志
上冊
へ13
3693
13

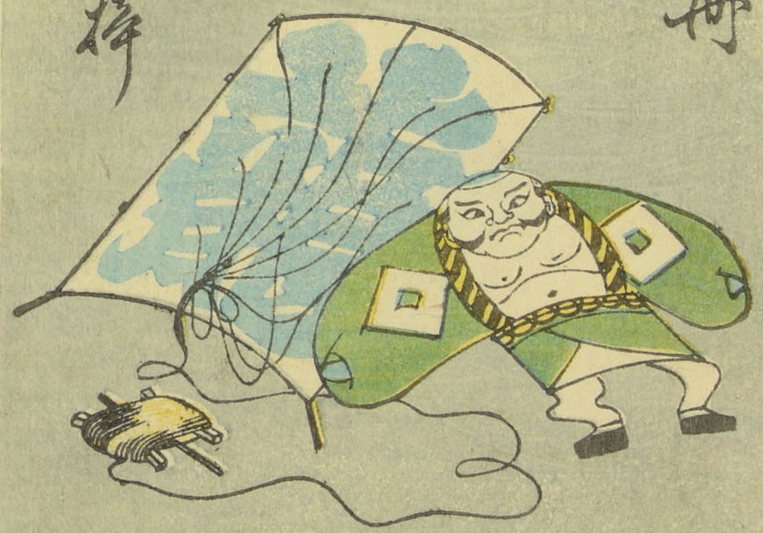
弓張月
上冊
へ13
3693
13

門へ13
統3693
巻13

椿美 波里月 第七編

上冊

西馬作
笑壽
家信の梓
國輝画



弓張月春廼屑榮當陽既ふ七編に至る此巻ハ御曹子大島と沿ひ數嶋と廻見ーて八丈渡海あ一嶋つあふ情状とあ二子と産ーて亦男は鳥人七郎三郎と將て帰ーて悪夜叉と呼て仕るに忠魂義胆とうねくあの部乃立ものこそ或八彫江ら野島の磯に流刑夜鳥丸ら父孝と思ふ是彼貞孝と尺と談朝雅足利へ倣ふ事又長女ら産る太郎丸次郎丸ら榮る春の功もこそ模譯と摘りも切らこそ八九十の巻と幾販形ふ我ハ鳥朝とうこそ道れく新院乃廟陵へ詣後再度白縫ふ會面ふこそ舜天丸出生ふ一末ふ南海に趣くまこそ遥ふ長譚ふ見ハ飽倦給ふこそ御高覽と希かふあん

嘉永六癸丑年孟陽 新鐫

樂亭西馬記

天照皇太神宮御祓

琉球

福禄

寿

翁

彫江

亡霊

為朝

愛女

島君

福寿

梅室

狸

黄八丈

大金

楽亭

八丈男

嶋漁父四郎五郎

嫡男

嶋冠者

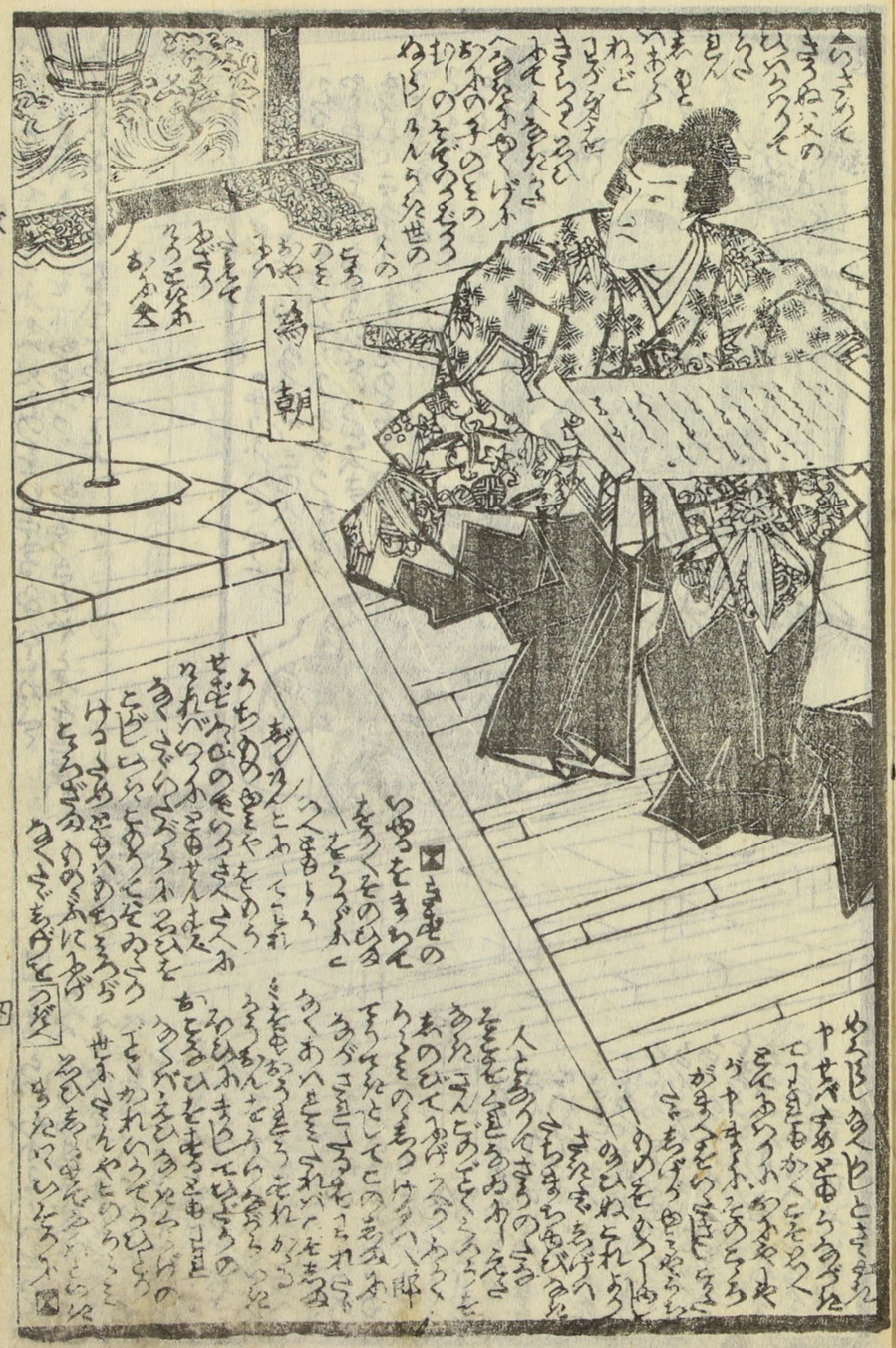
為頼

雲

雙兒一個
太郎丸
長女
從弟女
四郎
五郎
妻
大波
暁臺

雙兒一個次郎丸
後香爐山弥陀寺
住職

時員


為朝

鬼夜叉

為朝
為尤改
為頼
鬼夜叉

さら江
島君
朝雅

つぶて
鬼夜叉
鳥朝
海頼

さら江
島君

為朝
為頼
さら江

鬼夜叉
島君

為頼
鬼夜叉

為朝
さゝら江
島君

朝雅

時員

●[illegible]の色八重谷比数[illegible]盛に花の無常と唐土北越の七不思議ハ姉背乃中と焼栗の姫姫肩衣

上摺製本
初編 二編

正本新羅源氏 種本 白蓮縁起 菊橘紫雲幕

●御法を信じて七里乃得脱心も清澄れ妙法の蒙古退治の障物織

●長房の珠数に命八身を延る權者の担師ホ

香蝶楼豊國画圖

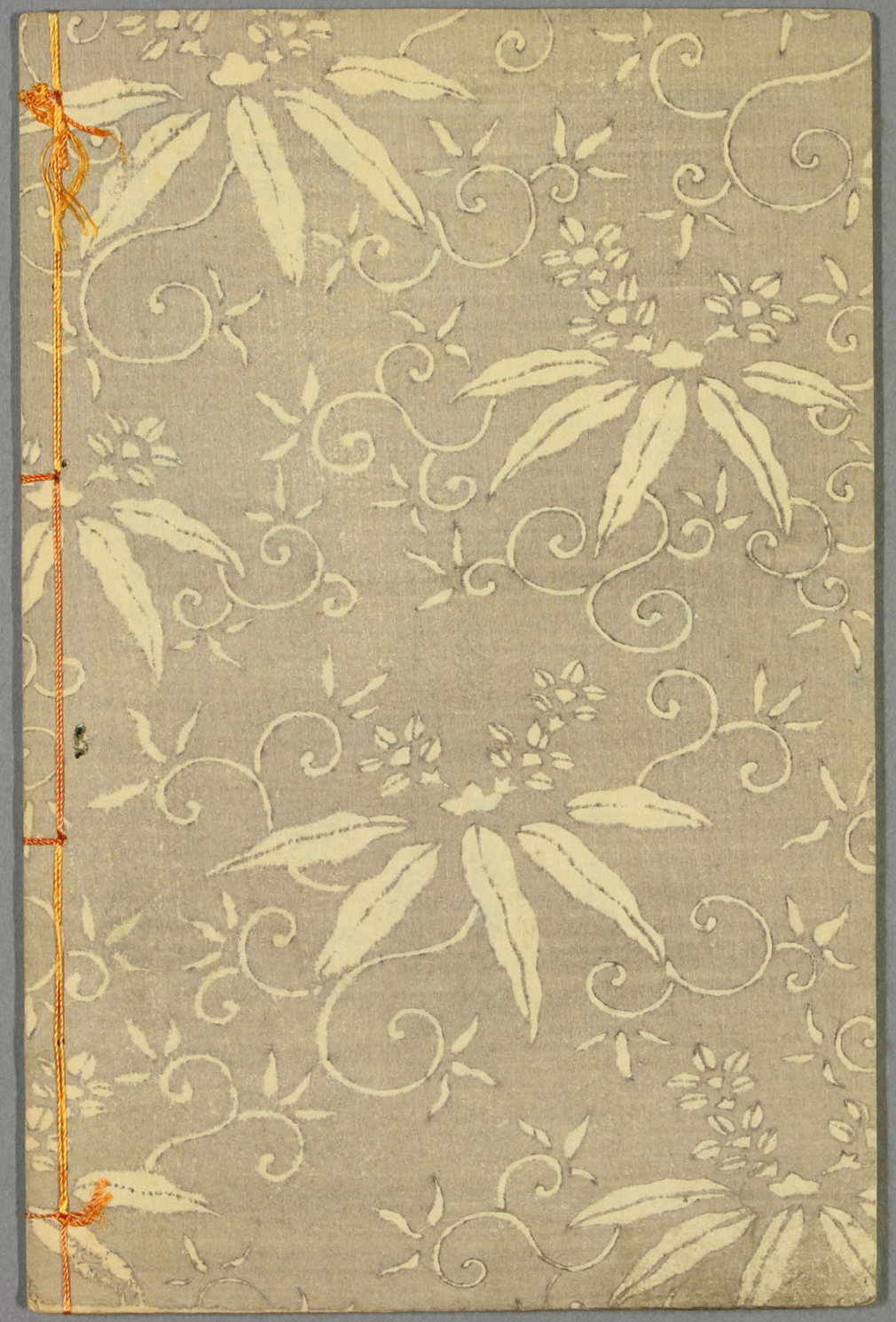
行議霰剱法古文

初編 同
二編 一雄齋國輝 画作

捕矢部之助正幸後ホ宇治常悦と名のる古今の英傑並鞠ケ瀬船ガ谷蟹江ゑんどうのく個の男子集會して室町御所ところどころと義兵と夢と長物語也

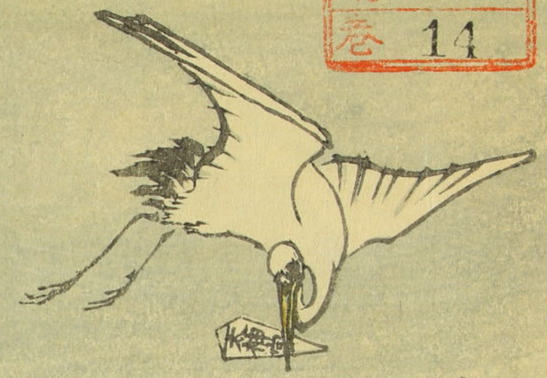
地本錦繪草紙卸 錦昇堂 恵比寿屋庄七板

夷福庵西馬著述



へ13
3693
14

門 へ13
號 3693
卷 14



弓張月 七編 下冊

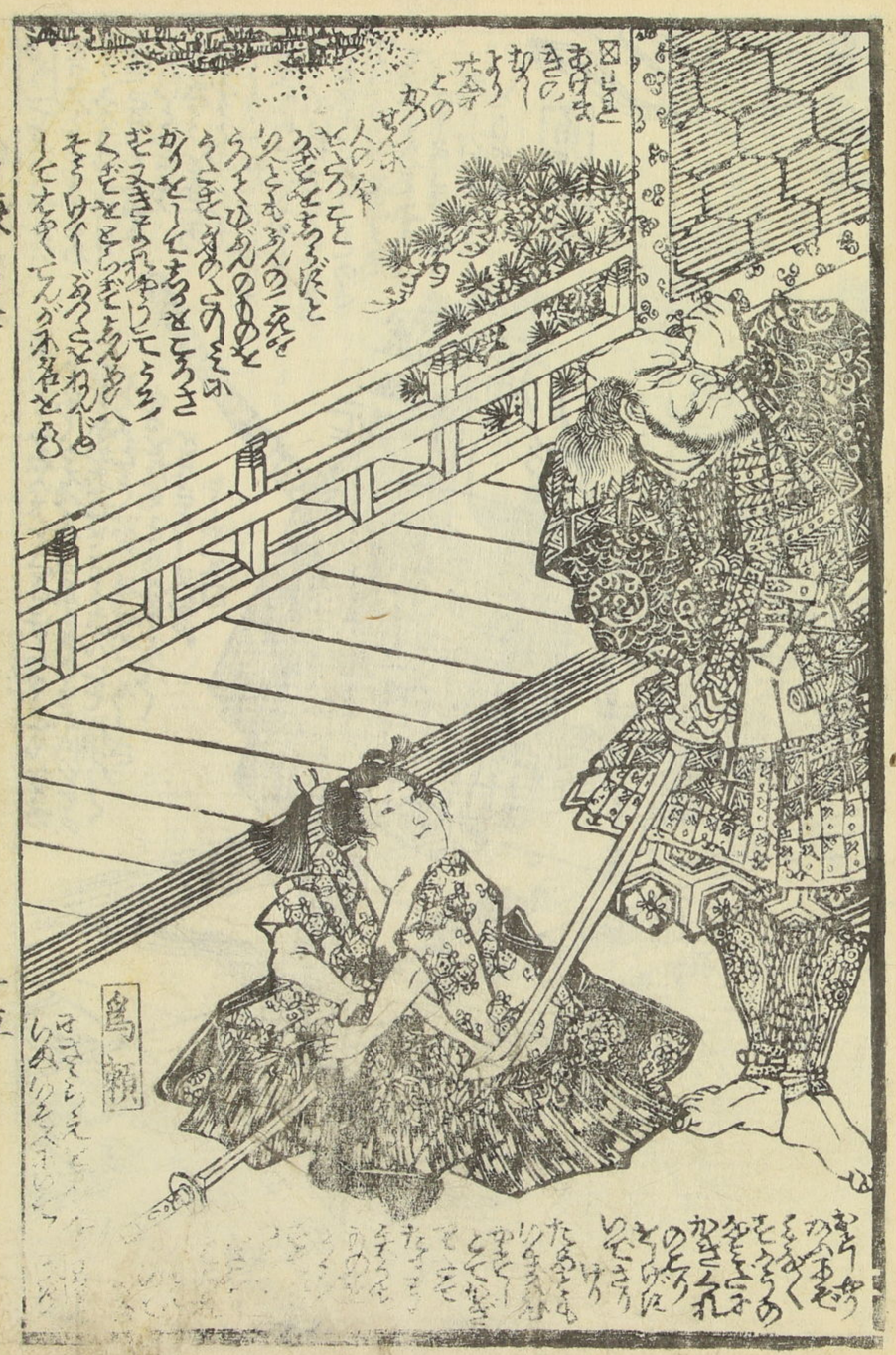
樂亭西馬化
歌川玉輝画
彩昇堂
壽梓

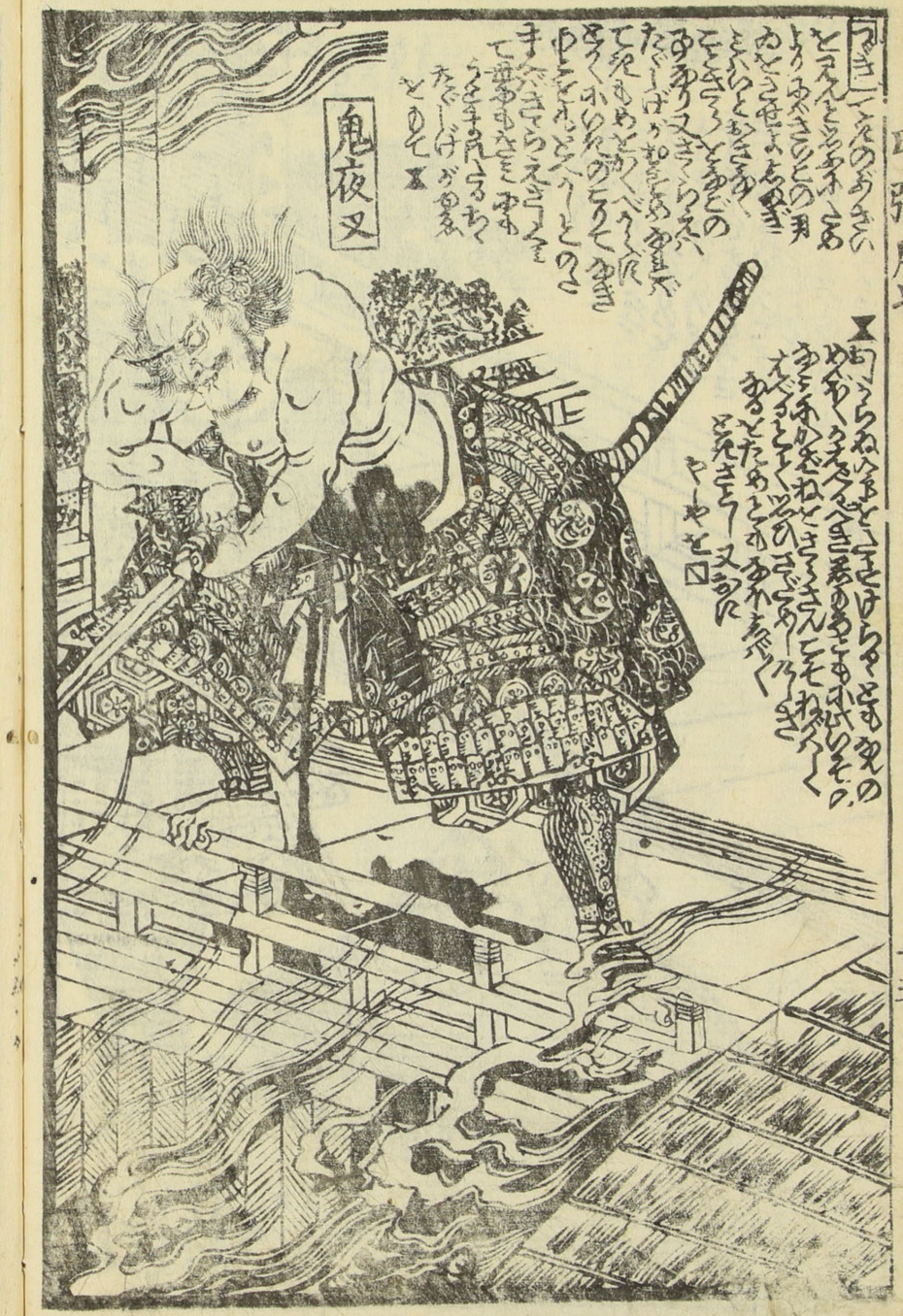
島君
為朝

為朝

為朝

鬼夜叉
さら江


鳥獄


鬼夜叉

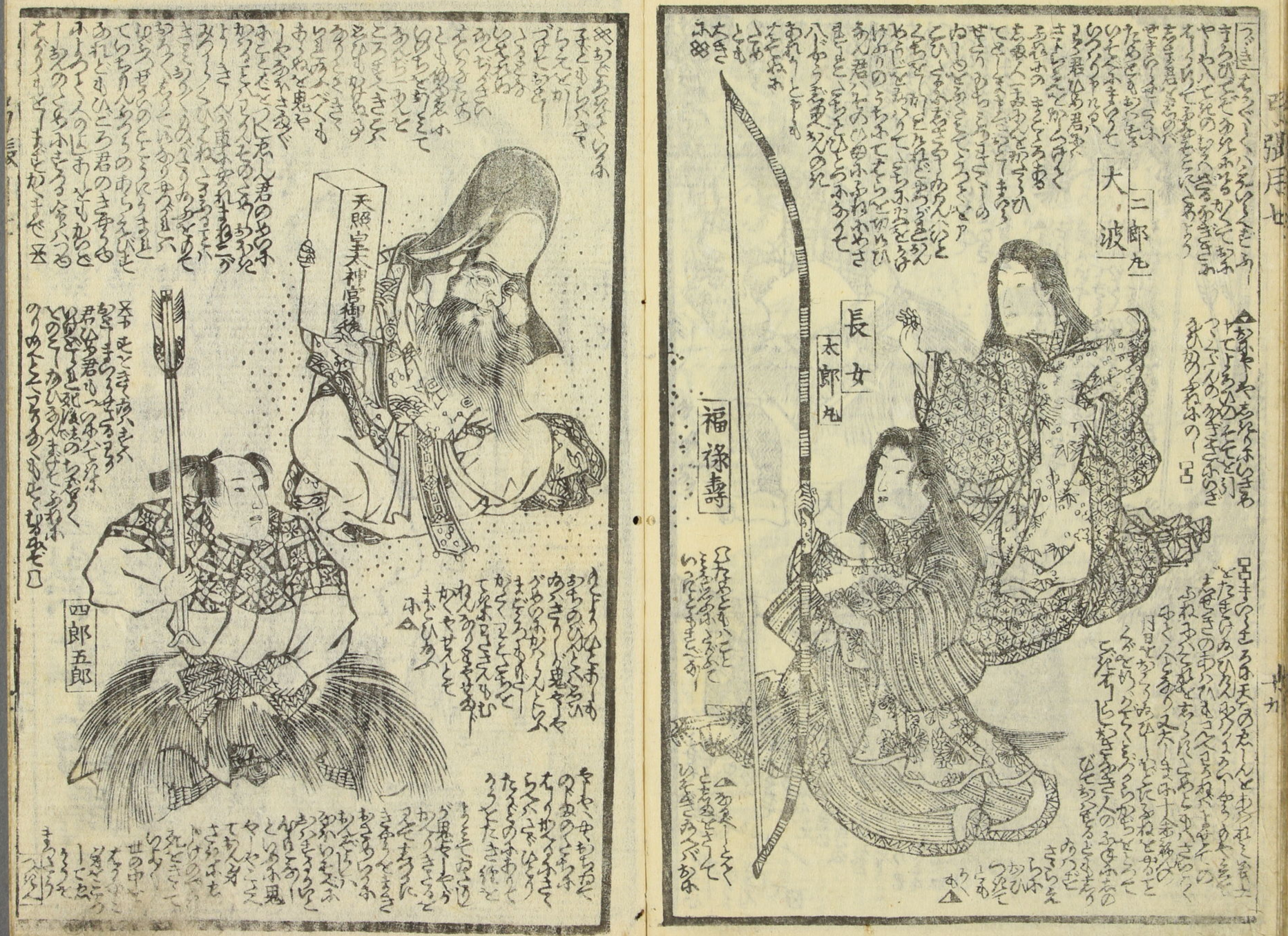
狩野光

爲朝
鳥君

四郎五郎

長女
太郎九

四郎五郎
大波
二郎九


大波
二郎丸
長女
太郎丸
福徐壽
天照皇大神宮御使
四郎五郎

樂亭西馬譯
一雄齋國輝畫

弓張月春の廻雪榮

樂亭西馬演譯
一雄齋國輝畫

當夏秋のまで美八編おりくるえ
衰笠翁の椿說弓張月を原本として其文談を省略し持画圖ふ新体と
增馬形て既に三編まで菱市猶當春四五の巻賣出し初秋八篇迄出販仕い

五十四郡萬世亀鑑 **竹雀千代晴** 初編 二編 三編 同案 同画

緑浄瑠璃に世上のそなた先代萩の名とりく新ふ五十四郡乃簇下
井筒外記畑倉茂十郎紙たちじめ數多れ英男忠士千辛万苦して
幼君と補佐あを支高尾薄雲の美名道哲の實記等を集め綴る也

佐野次郎左衛門次郎三 **成田鍬弘拓言船橋** 初編二編 同作 同画

讀切講談よりおもしろ〳〵の竜鈎鉤の一刀より佐野次郎左衛門五人代の一説に和尚次郎が
色欲の出刃包丁其切味とどろきまし〳〵例の曲式振ある因縁物語ふ新案ろく
當中秋より賣出し〳〵ひ所ぐさ物ぐさりれ撰史録